

(様式③)

## 研究成果発表要旨

研究課題：石狩地方において外来水生動物が現地在来種に与える影響評価

研究メンバー：山田湊太、石森鼓太郎、松崎颯太、平川貴爽、滝吉蓮、小山智己、佐藤汰祐

### 【目的】

外来生物は本来の生息地域外から持ち込まれた生物を指し、移入先で現地生態系にさまざまな影響を与えることで知られている。石狩地方にはこの 50 年ほどでブラントラウト、アメリカナマズ、コクチモーリー、ライギョ、グッピーなどが外来魚として持ち込まれて定着しており、アメリカザリガニや貝類も複数種で定着が報告されている。これらの外来生物は現地の多様性に大きな影響を与えるが、北海道ではその具体的な調査はほとんど行われてこなかった。

本計画では、石狩川水系を中心として水生生物の掬い取りおよび釣り調査を行い、生息生物種リストを作成する。特に河川の上流域～下流域で外来生物の種類や頻度をの比較を行い、どこに外来生物が多いのか、またどの種の在来種がそれに影響を受けるかを検証する。

### 【方法】

2025年5月～2026年1月にかけて、札幌市の南部を北上して豊平川、石狩川につながる支流である厚別川の複数個所において採集を行った。道内の規制に沿った開口径 38cm 以下のたも網を使用し、主に岸辺周辺の掬い取りで採集を行い、捕獲した水生生物は写真を撮影して種同定を行った。

採集された種について、特に上流、中流、下流の3区域で外来種と在来種の種数や量に違いがあるかどうかを比較した。

### 【結果】

厚別川の上流、中流、下流で明らかに外来種の種構成が異なっていた。上流では比較的冷たい水に生息する特定外来生物のウチダザリガニ、アズマヒキガエル、外来生物のブラントラウト、ニジマスが採集された。在来種としてはヤマメ、ハナカジカ、サケの幼魚が採集された。中流および下流域では、より暖かい水に生息する特定外来生物のクサガメ、外来生物のモツゴ、フナ、トノサマガエルが採集された。在来種としてはウキゴリ、ドジョウ、エゾウグイ、トミヨ属淡水型、スジエビ、モクズガニが採集された。

総じて外来生物が複数種確認されており、特定外来生物も数種発見された。上流域で発見された外来生物はブラントラウトやニジマスという養殖やフィッシングの対象種であるため、養殖場から逸出したり釣り人によって放されたものに由来してい

るものと考えられる。下流域においては外来生物の種数が多く、飼育していた個体が放棄された可能性がある。街中は温排水もあって水温が高くなっており、これが比較的低温に弱い種にとって好適な環境になっているのかもしれない。

今回は最初の調査ということで、どこにどのような種が生息しているかをリストアップすることに主眼を置いたが、今後はより対象となる河川を絞って外来生物が現地の生態系に与える影響をより詳細に調べていきたい。